

会津医療生協 募金行動に職員・組合員43人が参加！

二次避難先での相談会には自治体町長さんも



コープ前で募金と署名を呼びかける職員・組合員

会津では医療生協として街頭募金行動を、復興共同センターとして避難所での相談活動を行っています。5月14日に購買生協三店舗でいっせいに救援募金に取り組み、職員14人・組合員29人の合計43人が行動に参加しました。一時間の行動で88,112円が寄せられ、同時に行った「原発事故の収束を求める署名」も不安や怒りの声とともに102筆が集まりました。

体育館などからの二次避難がすすむ若松市内・東山温泉での相談会活動は、5月12日に「旅籠芦名」で3回目が開催され、30～50代と比較的若い世代の方を中心に70人が参加しました。訪れた方には原発立

地自治体である大熊町からの避難者が多く同町の町長さんも参加。「生活にも慣れてきた」と話す方がいる一方で、健康相談では不眠や便秘、ヘルペスなどの症状を訴える方もあり長引く避難生活のストレスが心配されます。

組合員さんの幅広い人脈で実現した“読み聞かせサークル”の絵本の朗読会は子どもだけでなく大人の参加者からも気持ちや和んだと好評だったとのこと。この間の相談会活動では身近な人に相談しているところを見られたくないなどの声も聞かれたため、紙面でのアンケートをまず実施するなど配慮もしてこれからも取り組んでいくとのことでした。

(会津医療生協東日本大震災ニュースの抜粋と聞き取り)



県連ピーチャリ実行委員会結成 いわき市での開催を決定！

5月18日第2回ピーチャリ実行委員会が開催され、県連内でも被災の大きかったいわきで連帯の意味も込めて企画を実施することが確認されました。

実行委員会では東日本大震災を受け「震災からの復興を趣旨に」「ピーチャリの『ピース・平和』の意味が深まっている」「被災者や被災地への連帯をあらわす企画に」「NO！原発の思いを表明したい」などの思いを出し合い、いわきでの開催を決めました。ピーチャリ実行委員会は平和委員会とJB実行委員会で4月20日に結成され、成功にむけて準備を進めています。



支援物資が山積みされているおおつきの会議室で第1回ピーチャリ実行委員会を開催

☆ピーチャリとは全国の民医連でとりくまれている企画で、青年職員を中心に平和を守ろうと自転車でアピールしながら街を走行すること(ピースチャリンコ、略してピーチャリ)。